号外

昭和56年3月26日

特集号
55年度市政をふりかえって

市報 にいがた

市の人口

		前月比
人口	451,816	(+77)
男	221,745	(+15)
女	230,071	(+62)
世帯数	142,759	(−81)

(56年2月末現在)

発行日 毎週日曜日
発行所 新潟市役所
新潟市西堀通6番町866
電話 代表(28)1000
編集人 高橋甲子
(担当市民企画部広報課)
印刷所 ㈱第一印刷所

市勢発展の基盤づくりに全力

市民生活優先のこの1年(55年度)

新潟市は、昭和五十五年度も市民生活優先を基本に市民生活を守り、市民福祉を高め、さらに市勢発展の基盤づくりに全力をあげて取り組んできました。また、日本海側沿岸の拠点都市としてたくましく発展するための都市基盤整備についても、積極的に取り組んできました。そこで今回は、五十五年度重点施策の成果や問題点、さらに新年度にはどう反映されるか―などを特集で紹介します。

生活環境

下水処理場

「中部、新潟浄化センター」本格的に稼動

昭和四十八年から本格的工事を始め、約八年の歳月と百六十億円の巨費を投じた「中部下水処理場」が完成し、昨年七月一日から本格的に稼動しました。全体計画からみると十分の一の稼動ですが、これにより万代排水区で下水道処理が可能となりました。

中部処理区の整備では、これからの処理開始に伴う先行工事として、近江一号幹線、網川原一号幹線や枝線の工事が行われました。

流域下水道（東部処理区）では、新潟浄化センターが十月一日に稼動しました。全体計画の十二分の一ですが、山の下地区の一部で処理開始しました。

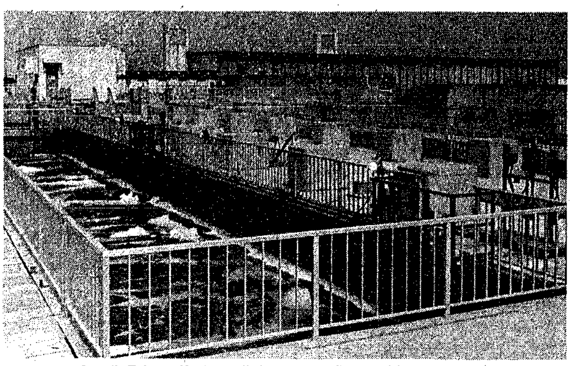
東部処理区の整備は、石山地区の幹線工事が一部完成したほか、先行工事として大平、有楽などの幹線、枝線の工事を行いました。

浸水対策は、坂井輪幹線の継続工事や有楽町の先行工事などが行われました。

都市排水応急対策 内野、坂井輪、五十嵐、木戸、松浜、姥ケ山、女池、鳥屋野地区―などで排水路の改修・改良、排土工事を行いました。

水洗化助成制度 万代、山の下排水区で水洗化する場合各種の助成を行いました。今年度の交付見込みは次のとおりです。

水洗便所改造助成金は、千九百五十件で千九百五十万円、私道等排水設備助成金百八十三件、二千六百万円、私設排水路等整備助成金が十件、千百万円―となっています。



8年の歳月と160億円の巨費を投じて完成した「中部下水処理場」

新潟遊園の用地買収 津島屋運動公園が完成

公園の整備は、寺尾中央公園（新潟遊園の用地買収）、寺尾あけぼの公園、さかいわポプラ公園、湖桜公園、大仏公園―の五カ所を新設。小公園は、わんぱく公園（中野山）など二十カ所、子供の遊び場（借地公園）も一カ所新設しました。

既設公園の整備では、じゅんさい池公園、西海岸公園、阿賀野川公園、西大畑公園、津島屋公園、小金町公園―などを継続して行いました。

このうち津島屋公園は、ごみ埋立地を公園としたもので、野球や陸上競技ができる運動広場が完成しました。

新年度は、継続の大公園の整備と太夫浜公園と北山池公園を新たに設けます。また、小公園十八カ所、子供の遊び場三カ所も新設します。

街路樹植栽では、下所、出来島線、末広通り―などに約五百本の植栽を行いました。

市営住宅を百十四戸建設

住宅の建設は、西新潟では十一年ぶりの大野藤山団地（五十四・五十五年度継続）に、四階建て一棟二十四戸、三階建て二棟三十戸、合計五十四戸が完成。

また、松浜団地に五階建て一棟三十戸、秋葉通団地も五階建て一棟三十戸がそれぞれ完成しました。

五十五・五十六年度の継続事業としては、新石山団地に九階建て一棟八十一戸、川岸町団地に四階建て一棟二十四戸（うち四戸は身障者向け住宅）を建設しています。いずれも今年の七月末完成予定です。

新年度は、松浜団地に八十戸（五十七年三月末完成予定）、中山団地に三十二戸（二カ年継続で五十七年七月末完成予定）、桃山町団地に四十戸（同七月末完成予定）、明石団地に四十二戸（同十二月末完成予定）を着工します。

中山団地は、このうち四戸が身障者向け住宅です。

道路舗装は55キロメートル実施

市民から要望の多い道路舗装は、約十億円をかけ市内百八十六カ所、約五十四・五㌔㍍を実施。

道路改良事業では、約八億五千万円をかけ、平島・出来島線など五十六路線、延長約十一㌔㍍の道路改良を行いました。

道路側溝整備は、L型、U型合わせ百七カ所、延長約十五・八㌔㍍。交通安全施設整備では、歩道新設十四カ所、約二・七㌔㍍、ガードレール四十七カ所、約六・六㌔㍍をそれぞれ実施。

私道整備助成は、八十二件、舗装延長約九・六㌔㍍、側溝延長約三・一㌔㍍、約四千五百万円を補助しました。

都市基盤

駅南開発

東側連絡通路 待望の開通

副都心の核づくりを目指す駅南口地区のまちづくりは、市民の永年の願望であった東西連絡通路計画のうち、東側連絡通路が昨年十二月二十五日に開通しました。

これにより市民や駅利用客の利便と駅南のまちづくりに、大きな影響をもたらすことになりました。

新年度は、引き続き西側連絡通路の建設に着手します。

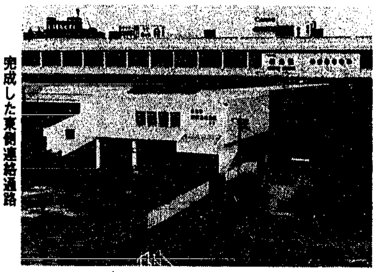
市街地再開発事業は、昨年八月十五日に第一地区の事業計画決定を行い建築物の実施設計、仮設店舗の建設―など事業を進めました。

そして、三月十日から再開発事業のかなめとも言える権利変換計画の縦覧が二週間にわたって行われました。

新年度は、縦覧後、意見書などの処理を終え、権利変換計画の知事認可を得て、建築物の着工を予定しています。

また、修景道路（六十㍍）の地下には、交通安全上や再開発ビルの利便性を高めるための地下横断歩道の工事にも着手しました。

南口駅前広場事業は、広場築造に伴う国鉄施設の支障物件移転や移転補償を行いました。新年度には、広場整備の完了を目指します。



完成した東側連絡通路

千歳大橋の用地買収 山の下・東港線立体交差ほぼ完成

昭和六十年に暫定二車線の開通を目指す関屋新大橋（仮称）の名前が、「千歳大橋」に決定しました。

今年度は、橋の建設のための地質調査、橋りょう形式の比較調査、用地買収を実施しました。新年度も引き続き、信濃川左岸の用地買収を行うほか、橋の実施設計を行います。

昭和四十七年度から工事を進めてきた山の下・東港線の立体交差は、今年度でほぼ完成し、いよいよ五月から供用を開始する予定です。

五十三年度から始めた「新潟都市圏パーソントリップ調査」は、今年度が最終年度で総合交通計画の各種の提案がなされる予定でした。しかし、県庁、市役所移転計画が持ち上がり、これらと整合させるため一年間延長し、新年度に提案がなされる予定です。

このほか、出来島・上木戸線の用地買収、中央跨線橋の基本調査、柾谷小路・青山線、小針・坂井線―の道路舗装なども行われました。

全体計画の60%進む ～流通センター～

坂井輪地区（小新、亀貝）に建設中の流通センターは、今年度十五億円、これまでに合わせて約七十二億円を投入し、全体計画の約六〇%の事業を進めてきました。

今年度の工事内容は、昨年度に引き続き盛土整地工事を行い大部分を仕上げました。また、橋りょうの新設や上・下水道、ガス管などの地下埋設工事も施行しました。

新年度は、団地内道路の築造と電気、水道などの供給施設を整備し、下水処理場を新たに建設するなどして九〇%の工事を仕上げます。

そして、来年の春には、造成敷地の約七〇%を進出企業に譲渡処分します。

今年度から流通センターに接続する道路として寺尾・小新線の整備を進めてきましたが、新年度も引き続き行います。

一方、流通センターに進出する企業は、今年度、〝企業診断〟を受け約八十社以上が事業協同組合に参加し、進出立地を確実なものにしました。

処理施設を整備 ～清掃～

清掃施設の改良、整備では東清掃工場のし尿処理施設について、反応塔取替工事、脱水機増設、気液分離器取替工事などを行い、老朽化した施設の能力回復を図りました。

また、二カ年継続で行っていた東清掃事務所の改築が完了しました。

市内全域で新たに年約一万坪が必要といわれる埋立地の確保については、赤塚、茗荷谷ごみ埋立地の整備を行うとともに新規に濁川ごみ埋立地（約一万七千坪）を購入しました。この濁川埋立地は、五十七年四月利用開始をめざし、五十六年度中整備を行うことにしています。

一方、不法投棄については今年度は三十㌧もの整理を実施。また、ごみの減量化と有価物再利用のPRも積極的に行いました。